

花北青雲 東北大会へ

県高校家庭クラブ研究大会

団体、個人で2年連続 食育や福祉題材に工夫

花巻市石鳥谷町の花北青雲高(遠藤敏夫校長、生徒469人)は、県高校家庭クラブ連盟研究発表大会の学校家庭クラブ活動の部(団体)、ホームプロジェクトの部(個人)でそれぞれ最優秀賞を受賞し、12月14日に宮城県で開催される東北大会に出場する。両部門での最優秀賞は2年連続。生徒らは「先輩の成績を超えたい」と意気込んでいる。

県大会は10月26日に奥州市で開催され、両部門に地区代表各校6校が出場した。



佐藤優菜さん

団体は「子どもの遊びに寄り添い、学び合おう」手作りエプロンシアターで「食育」と題し、家庭クラブ員1、2年生全員と総合生活科の3年生)359人が、遊びを通じて園児に食べ物や栄養師を伝える研究に取り組んだ。古着や端切れを活用し、背景に見立てたエプロンに布製の野菜を面ファスナーで貼り付ける「手作りシアター」は、物語にしたり対話方式にしたりと興味を

引くための工夫を凝らした。

発表者の佐藤優菜さん(2年)は「保育園の美習では子どもの反応がとても良かった。東北大会では、先輩たちを超える全国大会出場を目指したい」と目標を掲げる。

個人は、佐藤優菜さん(2年)が「祖母ちゃん」家庭プロジェクト「祖母の生活改善」の研究結果をまとめた。

関節リウマチの影響で生活に支障が、マイナス思考になってしまった祖母を元気づけようと、△5分まできり栄養バランスのとれたシニアリウマチ体操△毛糸の撚りクリ「ナイ作り」などを実践した。

佐藤さんは「初めは協力的じゃなかった祖母も少しずつ前向きになった。声の抑揚などで、発表の仕方を工夫して、他県の代表に差をつけたい」と意気込みを語る。

ミニ学習発表会で、エプロンシアターの実演をする。「学校家庭クラブ活動の部」の発表生徒＝7日、花北青雲高

